

第24回 日本学校教育相談会 夏季ワークショップ

C「発達に偏りのある子どもを持つ保護者への対応と支援」

2023年8月5日  
大正大学 井澗知美

## 本日のワークショップの構成

- ①発達に偏りのある子どもとは？
  - ・そもそも「発達」とは？
  - ・偏りがあるとは？障害？個性？
- ②困りごと、問題行動をとらえる
- ③保護者を支援するとは？
  - ・MSPA
  - ・ペアレントトレーニングという支援
- ④理解に基づく支援を

## 発達 (development)

語源的には

develop (古いフランス語ではdesveloper)

=des(否定の意)+veloper(包む)

⇒包みを解いて中身を出す

発達 (development) は

「誕生から死にいたるまでの連続的な変化」と定義されている。

学童期の子どもの生活は、家庭と学校が中心。学習、友だちとのかかわり。

## 偏りがあるとは？

発達に偏りがある≠発達障害

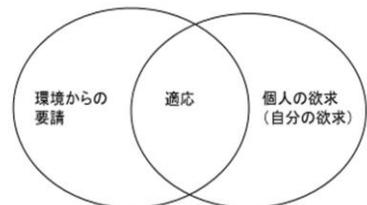
発達に偏りがある、凸凹がある、グレーゾーンという言い方をされることも

⇒大多数と異なる。異なる現れ方、異なる道筋をとって発達する子どもたち。

“神経学的多様性 (neurodiversity)”

障害がある

⇒日常生活において適応に困難を抱えている



## 発達障害:DSM-5では神経発達症群

- \*知的能力障害群 (Intellectual Disabilities)
- \*コミュニケーション症群／コミュニケーション障害群 (Communication Disorders)
  - 言語症／言語障害
  - 語音症／語音障害
  - 小児期発症流暢症／小児期発症流暢障害(吃音)
  - 社会的(語用論的)コミュニケーション症／社会的(語用論的)コミュニケーション障害
- \***自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder)**
- \***注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害 (Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder)**
- \***限局性学習症／限局性学習障害 (Specific Learning Disorder)**
- \*運動症群／運動障害群 (Motor Disorders)
  - 発達性協調運動症／発達性協調運動障害
  - 常同運動症／常同運動障害
  - チック症群／チック障害群

今日は、  
ASDを中心に  
お話しします。

## 自閉スペクトラム症 (ASD) の診断基準

- ・複数の状況で社会的コミュニケーションおよび対人的相互反応における持続的な欠陥
- ・行動、興味、または活動の限定された反復的な様式
- ・その症状は社会的、職業的または他の重要な領域における現在の機能に臨床的に意味のある障害を引き起こしている

## ASD (Autism Spectrum Disorder)とASC (Autism Spectrum Condition)

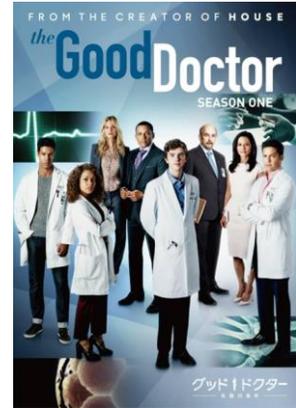
ASD児(者)の認知特性自体が障害なのではない。

⇒ 「治療する」とは？

神経学的多様性としてのASD

少数派の生活のし辛さか、ユニークさか

適応は、環境との相互作用



## 問題行動の背景を考える～冰山モデル



冰山モデルで考えてみる；

水面上に出ているのが「問題行動」

水面下に何があるのだろうか？



## ワーク① 問題行動はなにか？

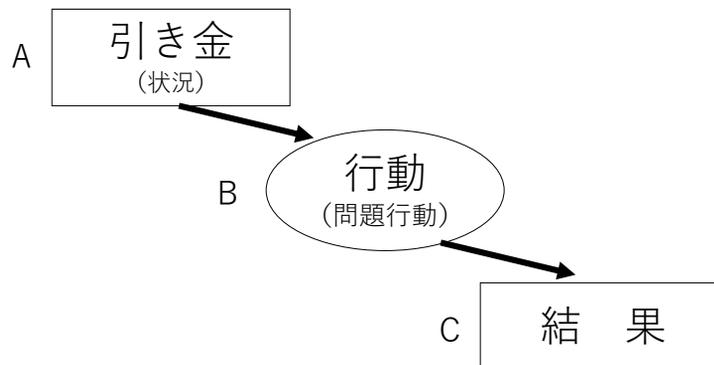
具体的に「行動」でとらえてみましょう。

「行動」とは、目に見える、聞くことができる、数えることができるもの。

練習；次の文章は行動でしょうか？

- ハナコさんは明るい子です。
- ハナコさんはわがままです。
- ハナコさんは思いやりのある子です。

## ワーク② 行動をとらえる～行動分析～

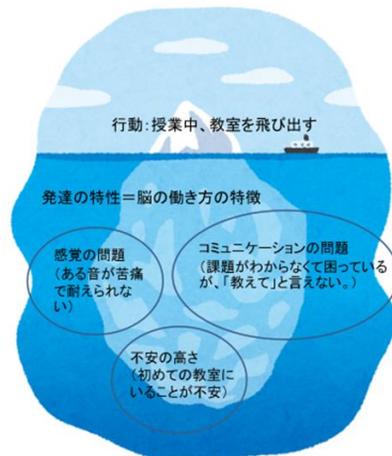


## グループワーク(10~15分)

5~6人のグループで話し合ってください。  
担当しているお子さん、  
どのような問題行動があるのか？

時間があれば行動分析をしてみましょう。A-B-C分析

## 問題行動の背景を考える~冰山モデル



## 保護者を支援する ～家庭と学校との連携のあり方を探る～

## 発達に凸凹のある子どもの学校生活を支援する ～A小学校での取り組み～

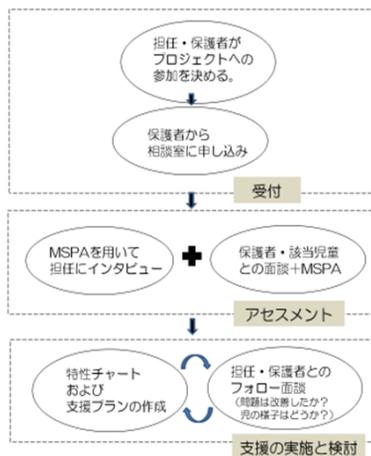


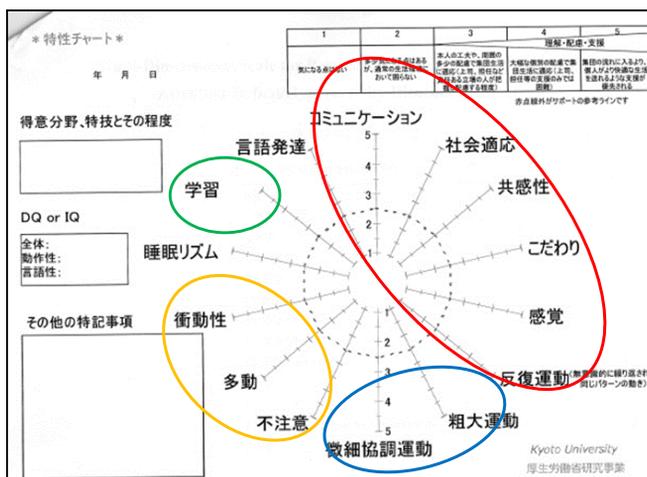
図5-4 「学校との連携」の進め方

- 知的障害がない。
- 家庭と学校で問題の現れ方が異なる。
- 保護者、担任から情報を得ることで子どもの状態を総合的に把握できる。
- チャートで共有できる

## MSPA(Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD)

- ・発達障害の要支援度評価尺度  
診断ではなく支援を目的として、生活現場でのニーズを重視して開発された発達障害の評価尺度
- ・発達障害者の特性を視覚的に表すことで、当事者と周囲の双方が特性について共通理解を持つのを促すことができる  
(多職種連携を促進)

## 14項目の特性について評価する



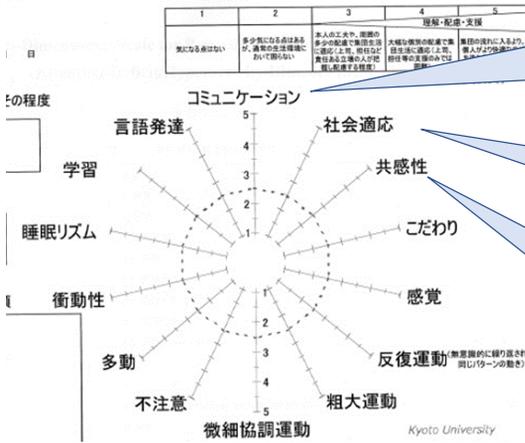
自閉スペクトラム症 (ASD)

発達性協調運動症

注意欠如・多動症 (ADHD)

限局性学習症 (LD)

# MSPA

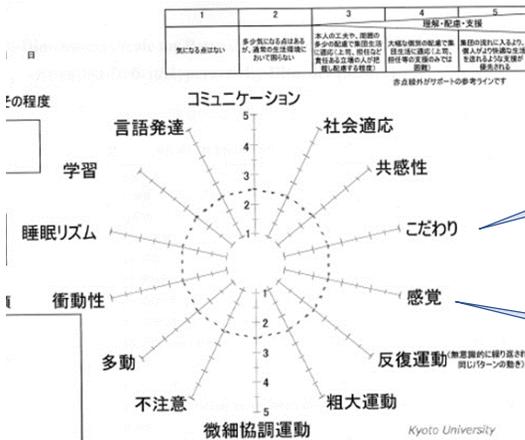


ジェスチャーや指差しなど非言語も含めたコミュニケーション。相手にわかりやすいように自分の言いたいことを伝えられる＆相手の意図を汲み取れる～落ち着いた1対1の面談、面談者が補足質問をする、誤解や伝言ミスを減らすために書いて伝えるなどの工夫が必要～意思疎通が難しい（**意思疎通・伝達**）

集団のなかで場を読み、周囲をみながら常識的な判断をし適応する力。：集団のなかで自然にふるまえる～集団は苦手でも少数の方がよいがおおむね困らない～やや孤立、配慮が必要、明確な役割があることで関われる～加配などの個別の配慮が必要～単独での行動に支障がある

感情の読み取りや表現。：他者の気持ちを読み取り、共感し、ふさわしく表情を変える～相手の気持ちより自分の気持ちを優先、感情の読み取りが表現が下手で友だちが減る～表情が平板で感情の交流に乏しい～人に興味がない、感情表出に対人性の要素無し。

# MSPA



興味の幅の狭さ、考え方への没頭、物事のやり方、融通の利かなさ、固執するなどの行動パターン。：なし～興味の偏り、マイペースさ、凝り性ではあるが日常生活に不都合がない～こだわりのため周囲とぎくしゃくするが大きいのは困らない～周囲があわせないと日常生活に支障がある～こだわりのため他者との生活が困難。

感覚の問題（敏感・鈍感など）：無し～多少あるが通常の生活で困らない～本人の工夫（耳栓、サングラスの使用など）や多少の環境調整（座席の工夫など）で集団生活に支障がない～刺激の除去など大幅の環境調整が無いと適応困難～感覚過敏のため外出や他者との交流が困難。

## 9段階評価

9段階の重症度の評価基準（要支援度）で評価。以上の5段階に分け、その中間を加えた9段階評価

1. 気になる点はない
2. 多少気になる点はあるが通常の生活環境において困らない
3. 本人の工夫や、周囲の一定の配慮で集団生活に適応=**軽度**  
(上司、担任など責任ある立場の人が把握し配慮する程度)
4. 大幅な個別の配慮で集団生活に適応=**中程度**  
(上司、担任、同僚などの十分な理解や的確な配慮による支援がなければ困難)
5. 集団の流れに入るより個人単位の支援が優先され、日常生活自体に特別な支援が必要となる=**重度**

## 自閉症スペクトラム;DSM-5では

- カテゴリカルな分類の限界  
ディメンジョナルな評価が有効。  
⇒**Level 1サポートが必要**  
**Level 2多くのサポートが必要**  
Level 3非常に多くのサポートが必要
- 臨床的に意味のある  
(significant impairment)  
⇒生活の支障という観点

目安として；

**Level1=MSPAではスコア 3**

多少の配慮；担任、上司、親友が理解してくれればOK。

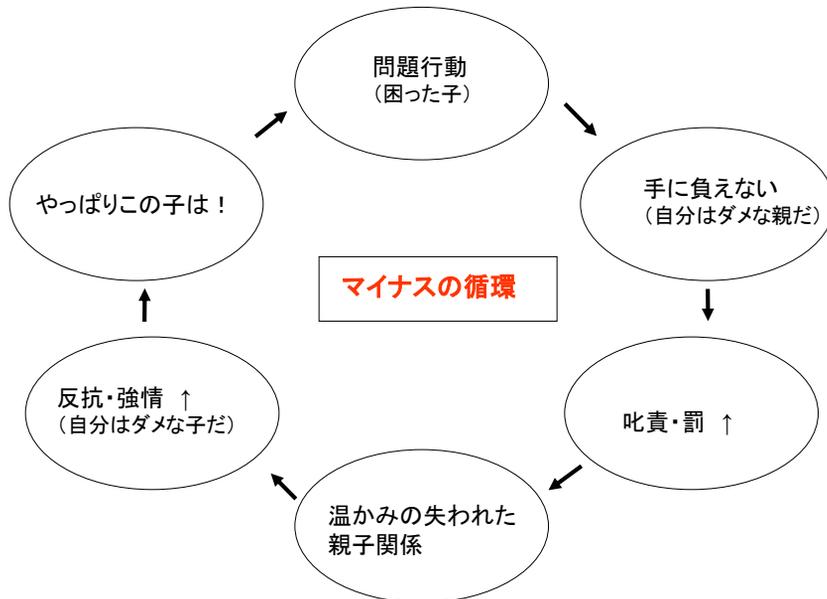
**Level2=MSPAではスコア4**

どうしてあの子（あの人）だけ特別？説明せざるを得ない、みんなに理解を求めるレベル。

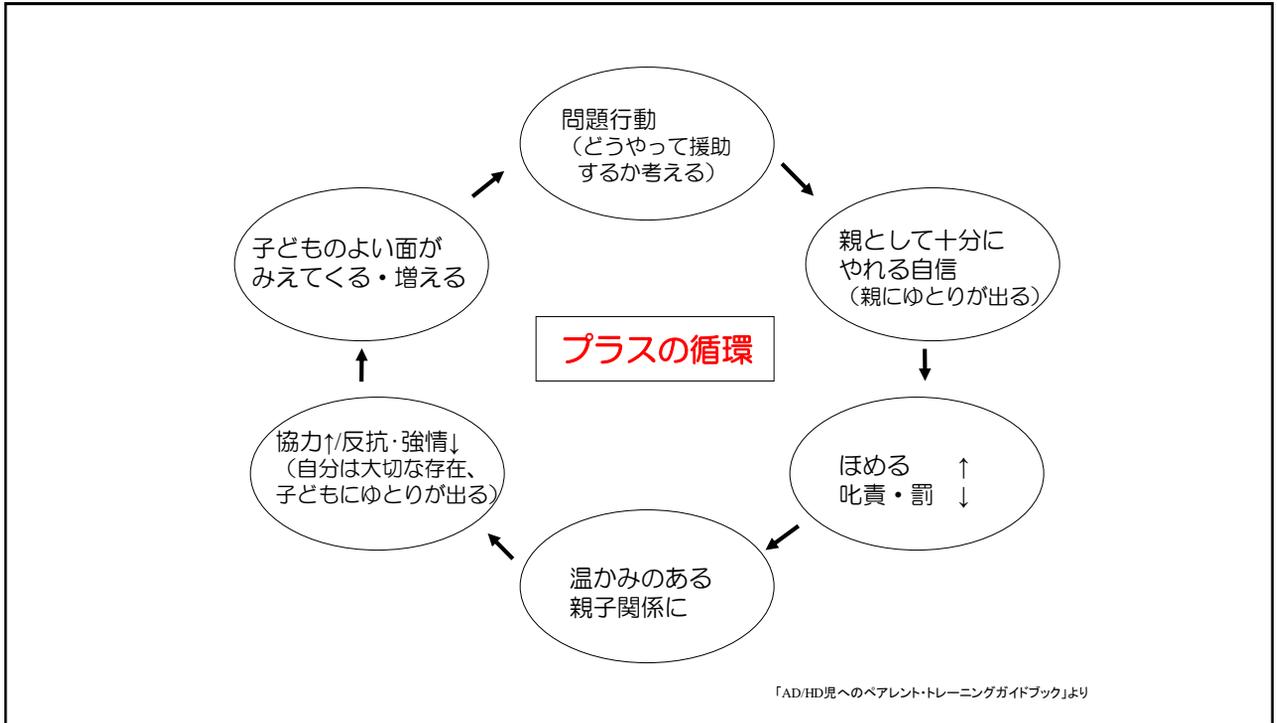
**Level3=MSPAではスコア5**

集団適応よりも  
個人の安心・安全が優先

保護者を支援する  
～ペアレント・トレーニングの考え方をういて～



「AD/HD児へのペアレント・トレーニングガイドブック」より



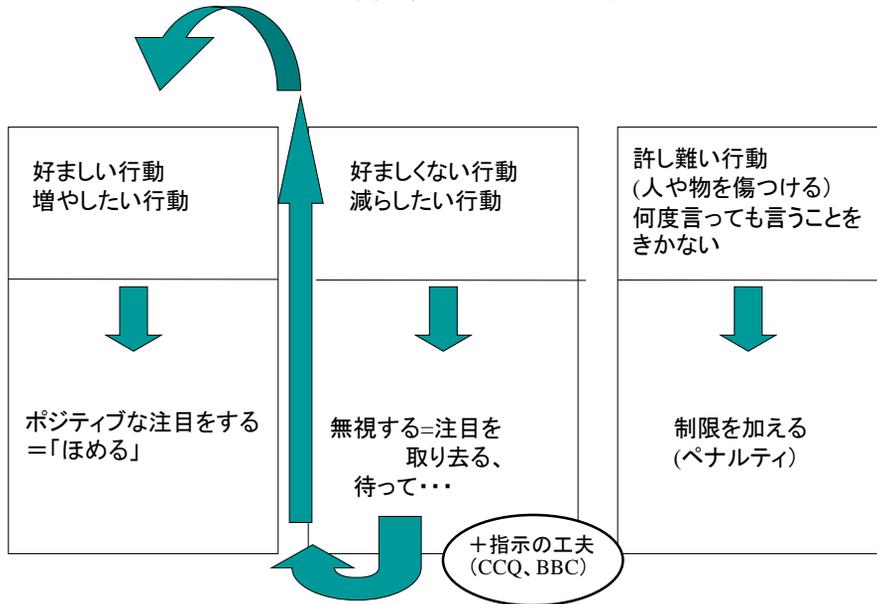
## ペアレント・トレーニングの目的

☆効果的な養育スキルの獲得  
子どもの行動管理ができるように。

☆親としての主体性の回復!!  
子育てが楽しいと思えるように。  
我が子の親として“まあまあ”やれる  
という効力感の獲得。⇔無力感

☆親も子どもも小さな成功を味わえることが大切。

## 行動を3つにわけろ



## ポジティブな注目をする(ほめ方のコツ)

- ①目 :視線をあわせて
- ②からだ :子どもに近づいて
- ③声 :穏やかな明るい声で
- ④感情 :感情をこめて  
微笑んで、肩に手をあてる、  
軽く抱きしめる、など。
- ⑤内容 :簡潔に、しかし、明確に
- ⑥タイミング :よい行動がはじまったらすぐに  
25%ルール

肯定的な注目をする  
(ほめる)



シンシア・ウィットナム著「読んで学べるADHDのペアレント・トレーニング むずかしい子にやさしい子育て」より

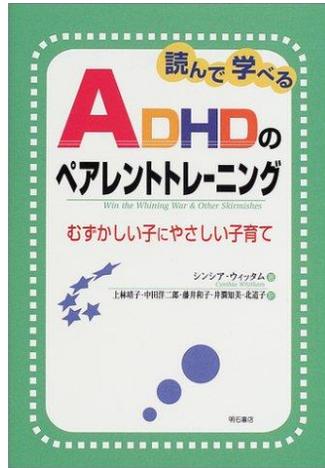
## セルフエスティーム

David Brooks(1990)

- セルフエスティームは、  
ステップバイステップの成功の継起であり、  
その成功は行為の結果であるもの。

4つのA; Attitude (態度)  
Action (行為)  
Achievements (達成)  
Attain (到達)

## 参考図書



## 行動の機能分析

問題行動が持続する⇒何か役に立っている  
(=その行動にはどういう機能があるのか?)

たとえば、、、  
嫌なことから逃れられる  
要求を伝える手段となっている等

## 自閉症スペクトラム (ASD) ⇒ 学習の仕方が異なる

「劣っている」のではなく、「異なっている」  
=脳の情報処理の仕方が異なっている。  
=学習の仕方が異なっている。

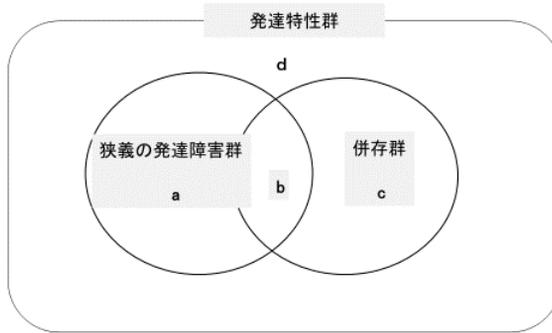
⇒支援するためには、

自閉症スペクトラム (ASD) の方の学習スタイルを知り、  
それにあつた方法を選択することが大切

## 自閉症スペクトラム (ASD) の学習スタイル

1. 視覚的に考える
2. 中枢性統合の弱さ
3. 独特の注意の向け方
4. 実行機能の困難
5. 感覚刺激の偏り
6. 心の理論の弱さ

## 発達特性の有無と発達障害との関係 (本田, 2016)



ASCとASD:特性と障害との関係。

a.b.c.d.どこに含まれている状態かによって支援は異なる。

大切なのは、その子らしく、成長(発達)していくのをサポートすること!

## ライフステージに合わせた支援を;学童期には?



幼児期:  
気づきと早期介入  
=発達促進的な関わり  
子育て支援

JASPER  
遊びを通じた介入

幼児期後期~学童期:  
園・学校での支援

SST  
教育的介入  
ペアレント・トレーニング

思春期:  
友達関係の支援  
親子関係の支援

PEERS

成人期以降:  
就労支援  
パートナーシップ